

算数・数学学力向上推進事業

- 【小・中・高等学校12年間を見通した指導】
- 本県の算数・数学の指導上の課題等に対する計画的・継続的な指導
 - 系統性を重視し、関連付けを図る指導
 - 校種間における児童生徒の学び方を理解し連続性を大切にした指導

一人一人の児童生徒に確かな算数・数学の学力を

学校訪問

～全県の小・中・高を
推進チームが訪問～

- 「児童生徒の姿」をもとにした指導の改善
- 明日の授業に生きる「具体的な協議」

ニーズに応じた訪問
内容、形態、回数等

小・中・高の連携を支援
教科の系統性と学びの連続性



「分かる」「できる」算数・数学の授業づくり

児童生徒一人一人が

- ・ 一時間いっぱい「集中」して取り組む授業
- ・ 「分かる」「充実感」をもてる授業
- ・ 「おもしろさ」を感じる授業

研修・育成

- 今日の課題について教職員の研修
- 算数・数学好きな児童生徒の育成

出前講座

わか杉思考コンテスト



単元評価問題

～「学力向上支援Webページ」で配信～

- 客観的実態把握に基づいた指導の工夫
- 一人一人の結果に基づいた個別指導

ニューズピックス
情報交換掲示板
資料庫

- 小・中・高で利用可能
- ・ 小1～中3、高1の問題
 - ・ チャレンジ問題



学力向上は日々の授業の充実から

「分かる」・「できる」算数・数学の授業の創造

- ・児童生徒一人一人が一時間いっぱい「集中」して取り組む授業
- ・児童生徒一人一人が「分かる」授業、「充実感」をもてる授業
- ・児童生徒一人一人が「おもしろさ」を感じる授業

児童生徒の視点に立った授業

「あきた型 算数・数学」の授業・学習

「あきた型 算数・数学」の授業実践で基礎・基本の定着を！

※本時のねらいを的確かつ具体的に設定し、ねらいの達成に適した教材を準備している。

一 単 位 時 間 の 流 れ

	児童生徒の姿	教師の働きかけ
導 入	□課題やめあてをしっかりとつかんでいる。	□学習のねらいを焦点化することができる。 ○課題意識を高め、学習意欲を引き出す工夫をしている。 ○厳選した発問や指示等によって、本時のねらいを児童生徒に的確につかませている。
展 開	□課題解決に向けて意欲的に取り組んでいる。	□算数的活動・数学的活動の充実を図ることができる。 ○実態把握に基づく適切な学習形態の下、児童生徒の気付きや考えを生かし、伸ばす指導をしている。 ○既習事項と関連させたり、図や表等を活用させたりしながら、見方や考え方を引き出している。 ○学び合いを通して児童生徒がねらいに迫る指導・支援をしている。
終 末	□学習内容が確実に定着している。	□確かなまとめと定着を図ることができる。 ○本時のねらいにそって学習内容を分かりやすくまとめている。 ○評価テストの実施などにより、学習内容の定着の確認を行っている。必要に応じて、その補足的な指導をしている。
全 体	□基本的学習習慣が身に付いており、集中して学習に向かっている。	□適切なねらいの下、児童生徒に学習内容をよりよく身に付けさせている。 □授業の構成に工夫があり、ねらいの達成に向けて授業が進められている。 □発問や指示、説明、板書が明確かつ的確である。

「あきた型 算数・数学」授業の一層の充実のための視点

「あきた型 算数・数学」の授業は、授業における児童生徒のあるべき姿を基本にすえた、学習内容の確実な定着を図る単位時間のモデルと言えるのですが、授業を一層充実させ、児童生徒の学力をより確かなものにするため、次の視点にも配慮した授業づくりを考えたいものです。

学びを深める自力解決・学び合いの役割の明確化

○ねらい実現のための、考えさせたいことの焦点化を

自力解決の場面

必ずしも、問題を解決済みにする時間ではありません

すべての児童生徒が「学び合い」に参加することができるようになるために重要な時間です

- 例：○自分で考え、自分の考えをもつ
○自分の説明の仕方を考える
○分からないこと、解決すべき点に気付く

学び合いの場面

課題意識がなければ学び合いは成立しません

核心を突く ー教師の力量が発揮される場面ですー

中心発問のための方略例

- 根拠（どうして）や意図（なぜ）
表現に注目（操作、図、式）
比較、共通・相違の確認、関連付け
ゆさぶり（疑問・間違いの活用） など

児童生徒の課題意識に着眼

自分の考え あるいは 戸惑い・つまづき・自信がもてないこと

- 学び合いの意義 ー学び合いは集団思考の場 すべての児童生徒が分かる場ー
- 他の考えに触れる、理解を広げる
 - 課題を焦点化し、共に問題を解決する
 - いろいろな考えを検討・整理する
 - 重要なことがらを共有する、まとめる
 - 他の視点で自分の考えを振り返る

全国調査等から得られた今日的課題の解決に向かう「授業の質」の改善

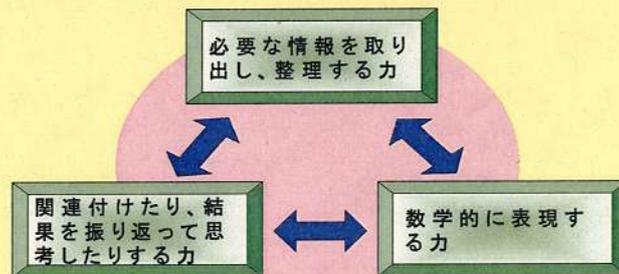
「分かった」を実感できる

→ 理解の質に目を向ける
(実感を伴った理解、充実感を伴った理解を)

「活用する力」を伸ばす

→ 実生活、他教科や次の算数・数学の学習への活用に目を向ける
(読解力、思考力、判断力、表現力の育成を)

重点的に身に付けさせたい力



「もっと学びたい」と感じる

→ 個々の児童生徒の学習意欲の向上に目を向ける
(理解の遅い、速いそれぞれにきめ細かな手立てを)

どこまで学ばせるの？ ー「基礎・基本の確実な定着」と「より高い目標をもったチャレンジ」ー

○学習指導要領では、「基礎・基本を基に、生きる力（確かな学力）の育成」が求められています。したがって、基礎・基本を身に付けるにとどまらず、基礎・基本を基にどこまで児童生徒を伸ばせるのかが問われるところです。授業において身に付ける力は「最終目標ではなく、最低保障」という考えに立ち、「豊かな学び」を作り出す創意工夫が必要です。

校種に応じて、授業において児童生徒を“鍛える”取り組み

小学校 … 問題解決の機会

の増加 中学校 … 考え、表現する機会の増加